

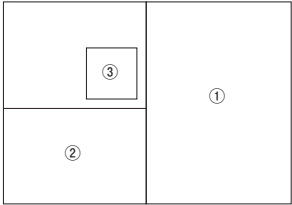
大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

総合地球環境学研究所 要覧 2015

Research Institute for Humanity and Nature



表紙写真



① photo／關野伸之
この美しい棚田の幾何学模様をつくり出すのは農家の人たち。
(インドネシア・バリ)

② photo／中川千草
結婚式のために用意された椅子と、そこに集まる子どもたち。
彼らは、どこでも遊びを見つけ出す。
(ギニア・コナクリ)

③ photo／佐々木夕子（提供）
子どもたちがお母さんのお手伝いで畑仕事。見よう見まねで
やってみたものの、「何やっとお！」と言いたげな子どもたちの
視線が痛い。
(ブルキナファソ)





総合地球環境学研究所（地球研／ Research Institute for Humanity and Nature）は、地球環境学の総合的研究を行なう大学共同利用機関のひとつとして 2001 年 4 月に創設され、2004 年の国立大学法人化にともない設立された人間文化研究機構に属しています。

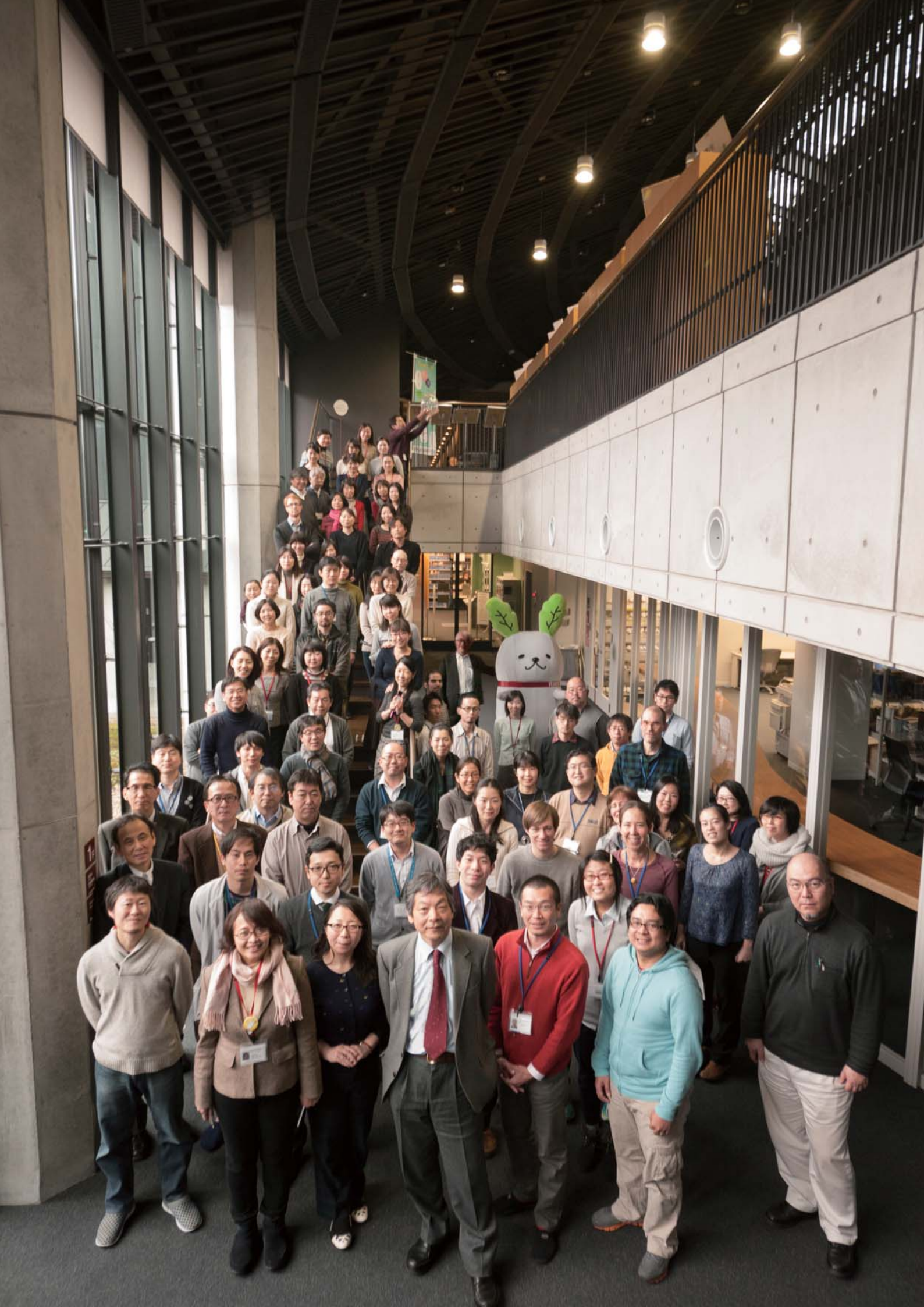
地球研のミッションは、「地球環境問題の根源は、人間文化の問題にある」という認識に基づき、地球環境問題の解決に役立てる総合的研究を行なうことにあります。環境の破壊（悪化）は、人間と自然系の相互作用環の不具合として現れますが、持続的で未来可能な相互作用環はどうあるべきか。地域的な特性や歴史的な経緯も考慮しながら、自然科学・人文科学・社会科学をまたぐ学際的な研究に加え、市民社会とも連携して、人と自然のあるべき姿を模索する課題解決志向型の研究を推進しています。

創設以降、各研究プロジェクトが独創的な研究を進める一方、所全体として、社会のニーズに応えさまざまな事業に取り組んでいます。たとえば、2010 年度からの第 2 期中期目標・中期計画に対応して、未来設計イニシアティブを提案し、どうすれば問題を解決できるのかを探る設計科学的手法も導入した研究を推進するしくみを取り入れました。また、2010 年 10 月に『地球環境学事典』を刊行しましたが、国際的な発信力を高めるため、現在その英語版を編纂中です。同時に、大学共同利用機関としての役割や機能を強化するため、2012 年度からは地球環境問題の解決に役立てるためのネットワーク型の「地球環境学リポジトリ事業」を進め、全国の大学・研究機関と双方向に利用できる基盤を本格的に整備しつつあります。2014 年度からは、大学などの他機関との協定に基づき共同研究を実施する機関連携プロジェクト制度を導入しました。さらには、現在、統合的な地球環境研究をととした持続可能な地球社会をめざす国際的な計画 Future Earth が進められていますが、このなかで地球研は、これまでのアジアを中心とした研究活動が評価され、2014 年 9 月に Future Earth のアジア地域拠点に指定されました。

2015 年度は第 2 期中期計画の最終年度にあたります。これまでの研究成果をまとめつつ、設計科学的手法をさらに深く探求し、現代的な社会の問題をふまえながら総合的研究に取り組むことによって、第 3 期へ向け地球環境学の新たな展開をめざします。

総合地球環境学研究所長

安成 哲三



総合地球環境学研究所 要覧 2015

目 次

Part 1 地球研とは

はじめに.....	2
地球研のミッション.....	4
研究プロジェクト方式.....	8
研究領域プログラム.....	9
研究推進戦略センター（CRD）・ 研究高度化支援センター（CRP）の活動	10

Part 2 外部とのつながり

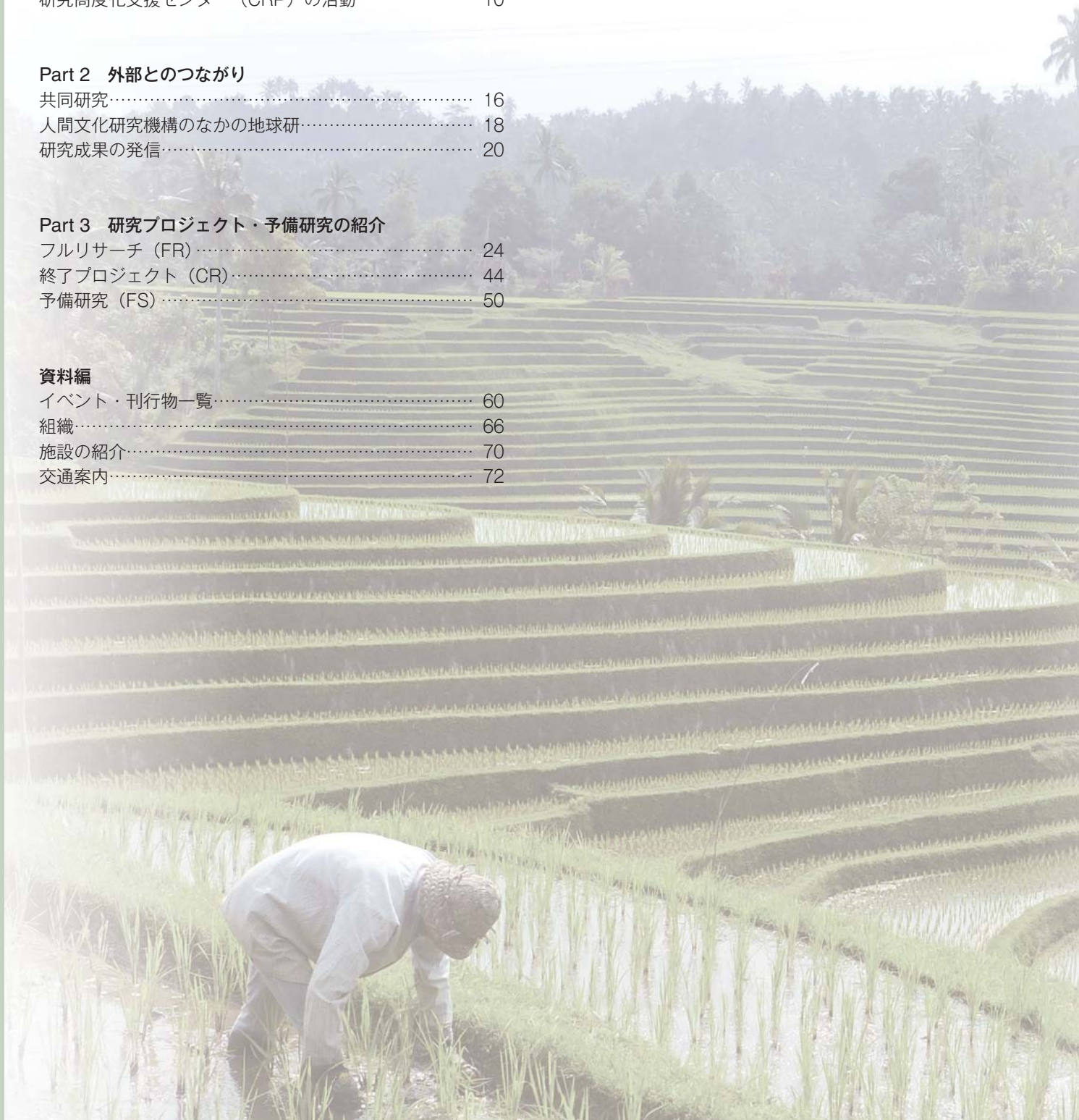
共同研究.....	16
人間文化研究機構のなかの地球研.....	18
研究成果の発信.....	20

Part 3 研究プロジェクト・予備研究の紹介

フルリサーチ（FR）.....	24
終了プロジェクト（CR）.....	44
予備研究（FS）.....	50

資料編

イベント・刊行物一覧.....	60
組織.....	66
施設の紹介.....	70
交通案内.....	72



Part 3 研究プロジェクト・予備研究の紹介

●フルリサーチ (FR)

FR5	窪田 順平	C-09-Init	統合的水資源管理のための「水土の知」を設える	26
FR4	石川 智士	D-05	東南アジア沿岸域におけるエリアケイパビリティの向上	28
FR4	田中 樹	R-07	砂漠化をめぐる風と人と土	30
FR4	佐藤 哲	E-05-Init	地域環境知形成による新たなコモンスの創生と持続可能な管理	32
FR3	谷口 真人	R-08-Init	アジア環太平洋地域の人間環境安全保障 ——水・エネルギー・食料連環	34
FR2	羽生 淳子	R-09	地域に根ざした小規模経済活動と長期的持続可能性 ——歴史生態学からのアプローチ	36
FR2	中塚 武	H-05	高分解能古気候学と歴史・考古学の連携による気候変動に 強い社会システムの探索	38
FR1	奥田 昇	D-06	生物多様性が駆動する栄養循環と流域圏社会 ——生態システムの健全性	40

●終了プロジェクト (CR)

終了プロジェクト一覧				45
CR2	檜山 哲哉	C-07	温暖化するシベリアの自然と人 ——水環境をはじめとする陸域生態系変化への社会の適応	46
CR2	縄田 浩志	R-05	アラブ社会におけるなりわい生態系の研究 ——ポスト石油時代に向けて	47
CR2	嘉田 良平	R-06	東南アジアにおける持続可能な食料供給と健康リスク管理の流域設計	48
CR1	村松 伸	C-08	メガシティが地球環境に及ぼすインパクト ——そのメカニズム解明と未来可能性に向けた都市圏モデルの提案	49

●予備研究 (FS)

* 未来設計 FS	MCGREEVY, Steven R.	持続可能な食の消費と生産を実現するライフワールドの構築 ——食農体系の転換にむけて	52
個別連携 FS	梶谷 真司	ローカル・スタンダードとは何か ——地域社会変革のためのインクルーシヴ・アプローチの理論と実践	53
個別連携 FS	金子 信博	食料主権と持続可能農業、福島汚染問題	54
個別連携 FS	舟川 晋也	農業活動と環境破壊の連環に関する統合的研究 ——分析、改善実践、再統合を通じた対応策の構築	55
機関連携 FS	水野 広祐	熱帯泥炭地域社会再生に向けた国際的研究ハブの構築と未来の 可能性に向けた地域将来像の提案	56
未来設計 FS	半藤 逸樹	クラウド志向性環境リスク認識システムの開発と問題解決型環境観 ネットワークの共創	57

* フルリサーチ (FR) へ移行予定